

先日、友達とショッピングモールの映画館に遊びに行った。そのショッピングモールには屋外にいくつかエスカレーターがあり、いろいろな人が行き来していた。

私たちが帰ろうとしたとき、エスカレーターに乗ろうとしているおじいさんがいた。その人は、小さい体を杖で支えて、ふらふらしながらゆっくり降りようとしていた。しかし、いつまで経っても歩こうとしない。きつとエスカレーターのスピードが速かったのだろう。

振り返ってみると、私は心のどこかで「きつと誰かがあの人を助けてくれるから、私が助けなくても平気だろう。」と思っていた。困っているおじいさんの手助けもせず、ただじっとおじいさんのことを見ていた。しかし、いつまで経っても、誰もおじいさんを助けようとはしなかった。周りの人々は見ても見ぬふりをしたり、あわれむような目で見えていたり、エスカレーターを乗おうとした

人たちの中には、イライラしたような目でその場を去っていく人もたくさんいた。

私は改めておじいさんを助けようか考えた。でもとても怖かった。一緒にいた友達にどう思われるだろう。「いい子ぶってる」などと嫌われてしまうのではないか。おじいさんを助けるという正しい行動をとりたい気持ちよりも、自分を嫌う人が増えてしまうのではないかという不安な気持ちの方が勝ってしまったのだ。

そのおじいさんは、とても怖い思いをしているはずなのに、助けたいと思っても動かない自分が恥ずかしく、そして悔しかった。結局、私はおじいさんの前を通る他の人々と同じように、見て見ぬふりをしてしまった。

しばらく経ったあと、おじいさんに声をかけている女性がいた。その人はおじいさんに優しく、丁寧な言葉をかけ、エスカレーターに乗る補助をしていた。おじいさんは柔らかい表情を浮かべていた。

その出来事を見ていた私や周りの人たちはみんなほっとしたような顔をしていた。そしてすぐにその場を去っていった。しかし、私はその瞬間、

自分がとても情けなくなった。助けたい気持ちがあつたのに、なぜ助けようとしなかったのか。今思えば、自分がおじいさんを助けたわけではないのに、なぜほっとしてしまったのだろうか。

あのおじいさんはどんな気持ちだったのか。きっと、周りから冷たい目を向けられ、誰からも声をかけられないまま、ただただ心細く、苦しかっただろう。もしも、自分がおじいさんと同じように助けが欲しいのに誰も助けてくれなかったらどう思うか。不安な気持ちになることを分かっているからこそ、行動すべきだったのではないか。そこまで深く考えることができたなら行動することができたのではないか。

私にはまだ自信がないし、これからの生活の中で生かせるかも分からない。けれど、もし困っている人を見つけたときには、この考えを思い出し、その人はどんな気持ちなのか考え、思いやりをもち、実際に行動していきたい。そして、もし他の人が私と同じ気持ちになったとき、この考えを伝え、共有していきたい。